



清和源氏の流れを汲む島田家の菩提寺

長溪山 永源寺を訪ねて

本堂 ●昭和51年、三十一世佛戒禅明前住職によって完成された



〈写真、右から〉
島田家の家紋「丸に三割剝花菱」
釈迦堂(旧、本堂)脚柱上部の彫刻
釈迦堂(旧、本堂)正面の欄間彫刻
島田家の家紋が施された屋根瓦
境内に安置された愛らしいお坊さま



通称、「お釈迦さまの寺」として知られる永源寺。毎年五月五日は盛大な「花まつり」が執り行われ、地元の人たちに広く親しまれている。その一方で、寺の成り立ちには由緒ある歴史もまた刻まれている。徳川家康の側近、三河武士旗本の島田次兵衛尉重次が坂戸の地を治め、ここに菩提寺を建立したのは今から四百年以上前の文禄元年(一五九二年)であった。

三河武士旗本の島田次兵衛尉重次が建立

清和源氏の流れを汲み、土岐氏の一門とされる名門島田家。坂戸の地を一族の居住地と定め、島田次兵衛尉重次によってこの地に菩提寺が建立されたのは文禄元年(一五九二年)のこと。現在、島田家の屋敷跡は不明だが、一万余坪の敷地を誇る寺の周囲には二重に堀が巡らされていた痕跡があり、この場所が屋敷跡でもあったのではないかと推察される。

島田家は、重次の祖父十兵衛の代には松平広忠に、父利秀の代では徳川家康に仕えた。豊臣秀吉が北条氏直を滅ぼした際、その先鋒としての家康の活躍を讃えて秀吉から関八州



取材にご協力いただいた三十二世山崎崇明住職(右)と彩青会(会計担当)の中村義顕師(左)

を賜った天正十八年(一五九〇年)、それより以前に重次は家康腹心の配下として、すでに坂戸とその周辺の地を領有・統治していた。その後、この地に菩提寺を建立したのである。開基は父の右京亮利秀、開山は当時の関三利の二つ越生流ヶ谷の龍隠寺十四世大鐘良賀禅師である。そして、寺号は利秀の隠居後の号、入道永源より命名された。寺は慶長十八年(一六三三年)、二代將軍徳川秀忠より寺領二十四石余りを賜り、その後代々この寺領を拜することとなる。また、萬治三年(一六六〇年)には永源寺四世住職鉄心御州禅師が大本山永平寺十九世大覚仏海禅師として曹洞宗門最高の栄誉に昇進し、ときの後西天皇より勅賜禅師号の御宸筆を賜った。この御宸筆は、永源寺の寺宝としていまも大切に保存されている。